

# 山行報告書

報告書作成日

2008年4月2日

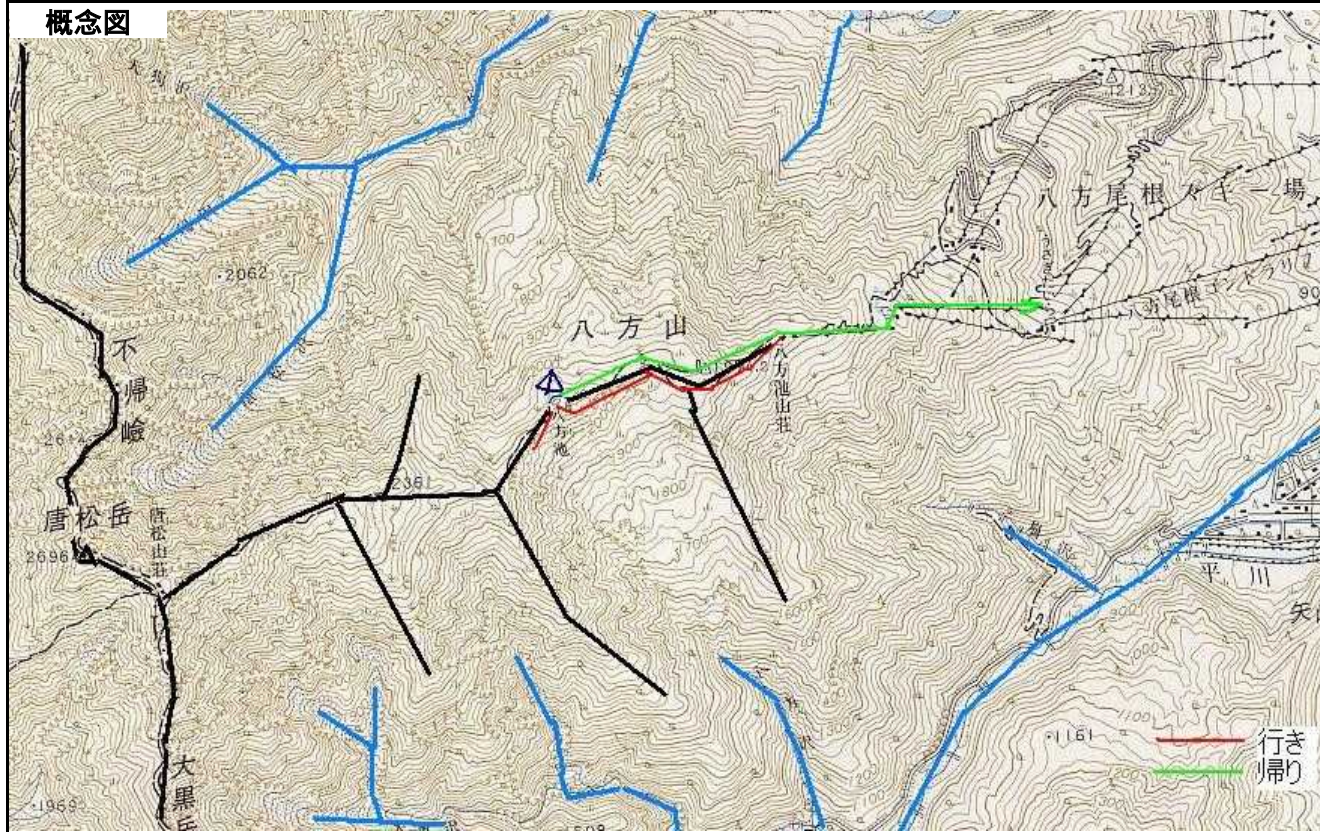
山名 [山域]	北アルプス 唐松岳	目的と方法	帰国したKさん歓迎山行
登山期間	2008年3月28日～29日	山行形態	1泊2日テント泊山行
参加人数	2名		

## 行動記録

28日 6時岡崎 = 豊田東IC = 駒ヶ岳SA = 豊科IC = 10時20分白馬(11時発) = ゴンドラ + リフト = 11時30分八方池山荘 - 12時50分八方ケルン 13時10分八方池(13時40分テント設営終了、テント泊)

29日 予定の4時30分起床したが、強風のため起床を6時に変更、8時30分発 - 8時40分八方ケルン - 9時50分八方池山荘 - 10時40分うさぎ平(11時発) = ゴンドラ = 11時15分白馬 = 大町温泉(薬師の湯) = 松本IC 経由 = 17時頃岡崎到着

## 概念図



**日誌** 当初27日から29日で上高地-蝶ヶ岳登頂を計画したが、28日の天気予報が悪いため、安全性が高くまたKさんの希望を入れ、八方尾根から唐松岳を目指す山行に変更した。豊田東ICから2回通勤割引を使い豊科ICへここから国道で白馬に向った。松本付近は曇りであったが、北に行くほど天気が悪く、白馬は小雪になった。八方には無料Pがあるが、金曜日で空いているので割引交渉しゴンドラ駅近くに駐車した。(2日1000円)ゴンドラと2つのリフトを乗り継ぎ八方池山荘にここでアイゼンを装着し登山開始。遠望は利かないが視界は良く、所どころにあるケルンを見印に高度を稼ぐ。八方池を越して風が強くなるが、明日の行程を考え、丸山を目指す。しかしここから急に風が強くなり、引き返して八方池付近にテント場を探す。雪崩の危険の少ないコルにテントを張ることにするが、この場所は雪の吹き溜まりのため、柔らかい雪の整地に時間が掛かる。また風に対する注意を早くKさんに伝えることを忘れたため、テントポールの袋を飛ばされた。まだ夕食は早いので宴会を始める。オーストラリアの経済が好景気なこと等、高尚な話を含め、1年ぶりの交友を深める。今回は圧力鍋を持参し、蛸飯を炊くが水の量が不足したためか、思ったほどの効果がない、残念。食事が早く終わり、予めMさんと19時に無線通信連絡を試そうと計画したがまだ早いので携帯電話を使い連絡を取り合う。しかしMさん以外の信号は受信できたが、やはり無理であった。早々に就寝することにしたが、夜中中テントが傾くほど、風に吹かれる。4時30分起床の予定であったが、まだ吹き止まず、起床を6時に変更した。6時に起床し食事の準備のためテントの前室に顔を出す、ここに出したザックは雪に埋まっていた。登山の準備してテントの外に出ると視界は利くが、丸山付近から上部は雲海の中、登頂を諦め下山することにする。八方池山荘との中間点くらいまで下ると、小屋に泊まった写真愛好家登山客と行き会う。またリフトも動きだしたため、今日登りだした、山スキーヤーやホーダーが登ってくる。視界の利く丸山付近まで行くらしい。我々もここで写真タイムとするが、五竜岳が微かに見える程度の視界である。さらに高度を下げ八方池山荘に着きその後は下山リフトを使わずに下山することにする。この高度は霧が深く、視界が利かないのでスキーヤーとの衝突に注意してゴンドラ駅まで行く。これで登山終了である。ここから大町で温泉に入り、長野に向うKさんを松本駅でダブルし帰路に着いた。

## 感想

今回はKさんの帰国歓迎山行として、また彼の希望も入れ、唐松岳を選択したが、予報天気図を考えると選択ミスであった。ハヶ岳方面であれば登頂できた。しかし西高東低の気圧配置での季節風の洗礼をもるに受け、雪山の厳しさを体験できたことは、今後生きると思う。